

大阪大学経営協議会（平成23年度 第4回）議事要旨

日 時 平成24年3月16日（金）14時00分～16時00分

場 所 大阪大学中之島センター 9階会議室1・2

出席者 平野総長（議長）

猪木、大竹、河田、川名、小林、近藤、城野、角、中村、野村、馬場(明)、森、山西、恵比須、東島、馬場(章)、相本、阿部、尾山、江口、高橋、中尾、岡村、米田、中田 各委員

欠席者 堀場、福澤 各委員

議事に先立ち、会議開催に必要な定足数を満たしている旨の報告があった。

続いて、前回（11月25日開催）の議事要旨については、既に各委員に照会し、内容を確定して本学ホームページに公表済みである旨報告があった。

議 事

【議事】

1 平成24年度大阪大学年度計画（案）について

本学の平成24年度計画案について、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、異議なく承認された。

2 平成23年度学内予算補正（第3次）（案）について

平成23年12月までの収入実績額及び平成24年1月以降の収入見込額を支出予算に反映させるための予算補正案について、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、異議なく承認された。

3 平成24年度収入支出予算（案）等について

本学の予算編成方針改定案、同方針に基づいて作成した平成24年度の予算配分基本方針案及び平成24年度収入支出予算案について、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、異議なく承認された。

4 教職員の給与等について

教職員の給与等に関し、特例教職員に関する規程を制定すること、夜間看護等手当額を改定すること、組織の改編に伴い給与関係規程を改正すること、人事院勧告に依拠することを基本とした給与改定を行うこと、給与の臨時特例については運営費交付金への影響の程度等を総合的に考慮して引き続き検討を行うことの5点について、配付資料

に基づきそれぞれ説明があり、審議の結果、異議なく承認された。

5 役員報酬規程の一部改正について

教職員の給与と同様の考え方により、役員の基本給等を改定することについて、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、異議なく承認された。

6 キャンパス・イノベーションセンターの取得について

本学中之島センターの3階から6階部分を占めるキャンパス・イノベーションセンターについて、配付資料に基づき、現所有者である国立大学財務・経営センターから売却の申し出があったため、本学が購入することとしたい旨の説明があり、審議の結果、異議なく承認された。

7 平成23年度大学基盤推進経費配分実績について

大学基盤推進経費の平成23年度配分実績について、配付資料に基づき報告があった。

8 平成24年度概算要求事項について

本学に対する平成24年度の運営費交付金措置状況及び概算要求で認められた事項について、配付資料に基づき報告があった。

9 運営体制の見直しについて

本学における運営体制を見直し、現行の「室」を平成24年3月末で廃止すること及び新たに「理事補佐」を設置することについて、配付資料に基づき報告があった。

10 総長補佐及び理事補佐の指名について

平成24年3月末で退任する総長補佐2名の後任を指名したことについて、配付資料に基づき報告があった。また、平成24年4月に新設する理事補佐17名を指名したことについても、併せて報告があった。

【意見交換】

1 今後の大学運営について

今後の大学運営、とりわけ秋入学について、これまでの検討の経緯や考えられる問題点等についての説明があった後、意見交換を行い、学外委員から次のような意見があった。

- ・ 企業では通年採用を行っているので対応は可能であるが、保護者の負担や、既存のシステムとの調整など、企業として取り組まなければならない課題も多い。
- ・ メリット、デメリットそれぞれあると思うが、これまでの教育システムを大きく動かしてまで実施するメリットがあるのかどうかを考えると難しい面がある。
- ・ 従来のもものが必ずしもいいとは限らない。いろいろ試すことは必要だが、導入すれば後戻りは出来ないの、学生にとって不利にならないよう十分に議論することが大切だ。

- ・ 大学が取り組むべき優先順位の高い問題は、日本の若い優秀な研究者が海外へ流出する現状への対応ではないのか。まず優秀な人材が集まるような大学にすることが先決問題ではないか。
- ・ 企業としては、通年採用の流れになっている部分では柔軟に対応できるが、高校卒業後の6か月間についての対応は難しい。実施するのであれば、一部で試行的に実施し、その中で大学が今抱えている問題を解決できるのかという検証も必要ではないか。
- ・ 秋入学とグローバル化とは別の問題なので、角度を変えて考える必要がある。今の教育制度を変えてまで実施するメリットはないと思う。秋入学と春入学とを選択できるようにするという事も考えられる。
- ・ 何も統一しなくても、各大学で独自性を出してもいいのではないか。特に大阪大学はその歴史を見てももう少し独自の国際化の方法を考えるべきではないか。
- ・ 実施しないと保守的で改革をしない大学と捉えられかねない。慎重に状況を見守りながら、秋入学も国際化の手段として考える必要はある。
- ・ 他大学に合わせなくても、大阪大学独自の方法を考えればよい。秋でなくてもいつでも入学できるような制度も考えてみてはどうか。
- ・ 留学生の受入れも派遣も減っているのは事実で、秋入学にすれば解決するという問題ではない。一部で現在実施している秋入学はいわば特殊なコースになっていて全体のコースと合わない部分があるので、カリキュラム上で上手くミックスできるような工夫をしてはどうか。

【その他】

1 平成 24 年度の経営協議会開催日程について

平成 24 年度の本協議会の年間開催日程について、配付資料のとおり開催することとした。

2 経営協議会委員の交替について

3 月 31 日をもって本協議会の学外委員 4 名、学内委員 2 名が配付資料のとおり交替することの報告があり、退任する委員の紹介があった。

(以 上)